

## 1 研究主題

(令和3～5年度3カ年継続研究2年次)

未来を切り拓き よりよい社会を創り 生き抜く力の育成を目指す学校教育の推進  
～全ての児童生徒に確かな学びの力を身に付けさせるチーム胆振としての学校改善～

## 2 研究推進の概要

- (1) 市町研修部長研修会の開催
- (2) 研修部報「いぶり」の発行
- (3) 胆振管内校長会研究大会の開催、道中研究大会、全連小研究大会、全日中研究大会への参加
- (4) 第8期研究計画を踏まえた各市町による研究の推進  
＜令和4年度 胆振管内各市町校長会の研究主題＞
  - 豊浦町校長会 学校経営ビジョンの実現と活力ある組織づくりにおける校長のあり方  
～これからの学校運営を担う教職員の育成を通して～
  - 洞爺湖町校長会 令和の日本型学校教育実現に向けた校長のリーダーシップによる学校改善
  - 壮瞥町校長会 ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を切り拓く子どもを育む学校経営の推進  
～小中一貫教育と地域とともにある学校づくりを目指して～
  - 白老町校長会 活動方針に基づく具体的取組を通し、白老町学校教育の充実・発展をめざし、職能を高める研究と実践を積み重ね教育条件の整備と改善を図る
  - 安平町校長会 安平町の教育の現状を踏まえ、未来を心豊かにたくましく生きる児童・生徒の育成を図る創意と活力に溢れた学校経営の創造
  - 厚真町校長会 「自立して社会で生きていく基礎を育み、新しい時代を担える子どもの育成」の具現化を進める学校教育の推進
  - むかわ町校長会 ① ふるさと「むかわ」のよさを知り、新しい「むかわ」を築く児童・生徒を育てる教育の推進  
② 「学ぶ意欲」と「優しさ」にあふれ、「元気いっぱい」に活動する児童・生徒を育てる教育の推進
  - 室蘭市校長会 新たな時代を切り拓き 共に支え合い 生き抜く力の育成を目指す学校教育の推進  
～全ての児童生徒に確かな学びの力を身に付けさせるチーム室蘭としての学校改善～
  - 苫小牧市小学校長会 苫小牧市の未来を切り拓く小学校教育の創造  
～校長としての職能・資質向上を目指して～
  - 苫小牧市中学校長会 未来を拓き、確かな学びの力を育てる中学校教育の推進
  - 登別市校長会 自ら心豊かに生きる人間の育成を目指す学校経営
  - 伊達市校長会 地域に根ざし、地域と共にある創意と活力に満ちた学校経営

## 3 研究の成果と課題

- (1) 第8期研究計画2年次として、オンライン開催ではあるが、講演会を実施するなど、教育研究大会の内容の充実を図ることができた。また、3年次の提言割当を市町校長会の理解・協力により改善することができた。
- (2) 各市町校長会の研究計画及び研究のまとめを集約し、交流を推進することができた。
- (3) 第9期研究計画を策定し、新年度の各市町校長会の研究推進に生かすことができた。
- (4) 管内校長会教育研究大会の対面又はハイブリット開催に向けた、研究大会や大会運営の在り方について検討し、分科会・研究協議を実現する。
- (5) 令和7年度の道中研究大会胆振室蘭大会に向け、管内校長会の研究体制を整備し、研究推進を図る。

## 1 研究主題

(令和3～5年度3カ年継続研究3年次)

未来を切り拓き よりよい社会を創り 生き抜く力の育成を目指す学校教育の推進  
～全ての児童生徒に確かな学びの力を身に付けさせるチーム胆振としての学校改善～

## 2 研究主題設定の趣旨

現在、我が国は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により社会構造等の環境が大きく、また、急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。各学校では、今般の新型コロナウイルス感染防止の対応に努め、「学校の新しい生活様式」を踏まえた行動基準に則った安全・安心な教育環境を確保するとともに、すべての子どもたちに健やかな学びを保障することが求められる。

また、GIGAスクール構想が加速し、1人1台の端末が整備され、個別最適化された学びに向けた適切な活用が求められている。さらには、学校における働き方改革への取組も喫緊の課題となっている。

この転換期に校長職を担う我々は、その責任の重さを自覚し、その職責を果たさなければならない。教育の専門家集団のリーダーとして、学習指導要領に掲げている「生きる力」を一人一人の子どもたちに確実に身に付けさせなければならない。そのためには、常に実態を見極め、各種の改革や施策の実現に向けたコーディネートしながら、学校改善を進めることが求められる。

これらのことを踏まえ、第8期の研究も、第7期同様に校長会として組織的に取り組んでいくことが求められる。新たな取組や大きな改善へ向け、様々な情報や状況の分析が必要であり、各校の校長が独自に取り組むのではなく、校長会として知恵を寄せ合い、力を合わせて大きな流れを作る中で自校の特色を出していくことが効果的であり、チーム校長会としての動きが校長の職能向上やチーム学校の強化につながる。そのためにもチーム胆振として胆振管内校長会が組織的な取組を進めていく必要がある。

具体的な研究の進め方として、3領域6視点という大きな括りでの研究推進が最も効果的であると考え。その際、第7期から改善された、市町校長会や胆振管内校長会が足並みを揃えるべき取組やその基盤としての義務教育9年間を見据えた小中連携の充実の取組に視点を置いた研究推進を継続し、これまで同様、全連小・道小や全日中・道中との関連を図りながら、グローバルな視点として全国的な動向や情勢を押さえつつ、この胆振の実態を踏まえた課題解決につながるローカルな研究を進める。

## 3 研究内容

- (1) 「教育課程」を活かす学校経営  
視点1 各種調査を活かした学校経営（学力・道徳・体力など）  
視点2 特色ある教育課程を編成・実施する学校経営（小中の接続・地域素材など）
- (2) 「人・組織」を活かす学校経営  
視点1 組織が機能する学校経営（体制・資質向上など）  
視点2 各種施策を踏まえた学校経営（方針・事業など）
- (3) 「家庭・地域の教育力」を活かす学校経営  
視点1 家庭・地域と連携した学校経営（教育活動への参画・PTA活動など）  
視点2 評価を活かした学校経営（学校評価・学校関係者評価など）

## 4 研究推進計画

- (1) 第8期研究計画3年計画の最終年度として、これまでの研究の成果と課題を踏まえながら、その改善策の検討と新たな課題の明確化に努める。
- (2) 第22回胆振管内校長会教育研究大会を会員各位の理解と協力を得ながら開催し、第8期研究をまとめるとともに、その成果を各校の学校経営に反映させていく。
- (3) 令和7年度の道中胆振室蘭大会の開催に向けて実行委員会を組織し、役割分担や準備日程等を明確にするとともに、提言発表に向けて、胆振管内校長会として連携を図り、全面的に支援する。
- (4) 全連小や道小、全日中や道中、各市町校長会との連携を密にし、一貫性のある教育研究の推進を図るとともに、研究成果の還流・交流に努める。
- (5) 管内研修部長研修会を通して研究の推進と交流を図るとともに、管内教育の実態把握と情報交流に努める。

## 5 研究組織

- (1) 各市町の研修部長相互の連携と協働を生かしながら、活動・事業推進計画に基づく業務を推進する。
- (2) 研修部報「いぶり」を適時適切に発行するなどして、胆振管内校長会教育研究大会の円滑な推進と内容の充実に努める。